

No.27 症候性尿路感染症発生率低減の取り組みについて



P（PLAN：課題設定）

- ・症候性尿路感染症の発生状況を把握し、発生率の低減を目標としました
- ・サーベイランス結果を定期的に評価し、発生要因の分析を行うとともに、標準予防策の徹底やアウトブレイクへの対応を通じて、尿道留置カテーテル管理の適切な運用を推進することを計画しました

D（DO：実施）

- ・感染対策研修やリンクスタッフ活動を通じて標準予防策の周知を行うとともに、ICTラウンド等を通じて感染対策の実施状況を確認しました
- ・症候性尿路感染症のサーベイランスを継続し、発生状況の把握およびデータの収集・分析に努めました

C（CHECK：評価）

- ・サーベイランス結果を年次で評価したところ、**2022年**の発生率は**3.84%**と全国平均を上回っていましたが、その後は**2023年1.07%**、**2024年0.97%**と減少し、全国平均を下回る水準で推移しました
- ・発生率の変動については、感染対策活動による効果に加え、サーベイランス対象診療科や判定方法の違いによる影響も考慮した上で評価を行いました

A（ACT：改善方針）

- ・サーベイランスの精度向上を目的として、感染対策システムの導入に伴い、サーベイランス対象部署を全診療科へ拡大してまいります
- ・これまで各部署からの報告に依存していた感染判定については、判定基準に基づき感染制御部が一元的に判定する体制へ見直しを行い、より正確なデータに基づく継続的な評価と改善につなげてまいります